

保護者と指導員、 共に学びあい よりよい学童クラブへ

久保田涼子

岩手県大船渡市 放課後児童クラブにこここ浜っ子クラブ 指導員

東日本大震災から五年が経ちました。あっと言う間の五年のように私は感じます。この五年の間、全国の皆様からたくさんの方の支援をいただき、本当に感謝しております。

私の勤務する学童クラブの施設は小学校の空き教室で、二十数名の子どもたちが通っていましたが、小学校が震災で全壊し、いまは仮設施設で保育を行っています。子どもの数は増え、毎日四五人の子どもたちが元気に通ってきています。二〇一六年度には新施設が完成し、引っ越しする予定です。

現在の気仙地区学童クラブ 連絡協議会の状況

気仙地区学童クラブ連絡協議会（以下、気仙連協）は、私の住む大船渡市と、隣接する陸前高田市にある合計二二の学童クラブで構成されています。私は

その気仙連協の役員をしています。気仙連協に加盟する学童クラブのうち、四つの学童クラブが震災後に開設されました。二〇一六年四月には、大船渡市でも一つ新たな学童クラブが開設する予定になっています。

震災後、どの学童クラブでも子どもの数は増えています。仮設住宅での生活や学校への通学手段の変化、保護者の離職や転職など、その多くが震災に起因しているものと考えられます。地域や家庭内での不安要因が子どもたちにも大きく影響しています。

いまの大きな課題の一つに、指導員不足があります。二〇一五年度から指導員が常時二人体制となったことで、長時間勤務となる指導員もいます。この課題は行政にも伝え、支援要請を行ったところです。

二〇一四年から二〇一五年にかけて、

国学童保育研究会には、気仙連協からもたくさんの方が参加しました。それまで研修にはあまり参加されなかった方々も、この全国研に参加して、学びあいのよさを感じたようでした。

二〇一五年度は、二〇一五年三月に国が策定した『放課後児童クラブ運営指針』の理解を深めるためにも学習会をしたい」との声があり、二〇一五年二月、「学びあうー育てようー学童保育」と題して、気仙地区学童保育研究会を開催しました。参加者は一八〇名と、これまでで最高の人数でした。

全体講演は、「運営指針を学ぼう」と題して前全国学童保育連絡協議会事務局次長の真田祐さんが行い、分科会では①子育てに大切なこと」と題して児童家庭支援センター大洋（大船渡市）の船野克好さん、「②親子であそぼう」と題して県立生涯学習センターの佐藤敦士さん

にお話をいただきました。また、「元氣の出る保護者会活動」をテーマに、シンポジウムも行いました。

参加された方々からは、「保護者ももっと勉強して、指導員と一緒にがんばろう」と思いました。「学童クラブの運営がいかに大変か、保護者の立場から少しでも理解できてよかったです」「保護者の立場、指導員との関わりなど、それぞれの思いを共有させてもらいました」などの感想が寄せられました。

この研修会は、企画・運営などすべてを気仙連協のみで行いました。「よりよい学童クラブにしていきたい」との思いが団結力を生んだのだと私は思います。

* * *

復興にはまだ時間がかかると思いますが、お互いに声をかけあい、みんなを前に向いて進んでいきたいと思っております。今後とも応援よろしくお願いします。

共に学びあいの場を

気仙連協として「指導員の仕事」「指導員の処遇」「保護者会の役割」の三点についてガイドラインの作成を行いました。これまでは、それぞれの学童クラブが個別に基準を決めていましたが、気仙連協内でできるだけ統一した内容となるよう、話しあいながら定めたものです。現在、各学童クラブではガイドラインの内容に近づけるように努力しているところですが、

また、気仙連協内に指導員部会も立ち上げ、そのなかに「研修部会」と「ほぐし部会」をつくり、それぞれが活動を進めています。部会が指導員たちの情報交換の場となり、横のつながりもでき、とてもいい関係がつけられています。

二〇一四年の秋に岩手県で行われた全